



# アラカト

## 「鉄の鎧兜」神保町シアタービル

Iron Armor : Jimpo-cho Theater Building

岡田 健  
Takeshi Okada

神鋼リサーチ(株) 顧問  
岡田木造建築士事務所 管理建築士

最近、有名建築家による鉄の屋根の建築が目立つ。例えば安藤忠雄が「一枚の鉄板」と称した、今一番人気の文化スポット：東京ミッドタウンの中に建てられたデザインミュージアムがある<sup>1)</sup>。三宅一生が「一枚の布はそれを身につける身体の個性によって、異なった立体のフォルムを作り出す。」といているが、その一枚の布が一枚の鉄板にかわり、シンプルな屋根の下に自由で活気のあるデザイン空間を包み込んでいる。ジャンボジェット機の両翼のような鋼板屋根は片方だけで長さ54 m、幅12 mに達する。使用材料は厚さ16 mmのジンクリッチプライマー処理厚鋼板を溶接の上、フッ素樹脂塗装を施したものである。

また鉄板で覆った劇場といえは伊東豊雄の杉並芸術館がある。一枚の布を地面にフワッと被せたようなテントの構成イメージを鋼板で実現している。屋根、壁に窓とは思えないような小さな穴を沢山開けて、逆に内部性が強調された建物になっている<sup>2)</sup>。

この両建築家の近作にくらべると(株)日建設計の山梨知彦と羽鳥達也の設計による神保町1-23計画「神保町シアタービル」は屋根も壁も鉄で覆われた更なる異型の劇場建物である。鹿島出版会2006年度SDレビューに入選したこの建物は一般公開に先立って2007年6月21日、東京建築士会から見学会が行われた。

神保町すずらん通りを行くと、ごちゃごちゃした商店、古本屋、スクールの中に忽然と異型空間が出現する。写真1はすずらん通りから曲がって北側からの外観である。地平面に3角形の窓があるが、入り口の立て看板がないと劇場建物とは思えない。屋根・壁に厚さ4.5 mmの耐候性鋼板を三角形に切ってパネルとしてつなぎ合わせたその様は、巨大な鉄の鎧兜を思わせる。

もともとこの土地には(株)集英社の駐車場があり、その跡地を(株)小学館が借り受けた。自身が経営するミニシアターとさらに吉本興業(株)に呼びかけて同社の大正11年開

業の寄席・神田花月亭を再開すると共にその稽古場を同居してもらって、シアターコンプレックスとする案があった。小学館はこのアイデアを日建設計に持ち込んだ。

日建設計では建物を計画するにあたり次のように考えた<sup>3)</sup>。

「この計画は、かつての芝居小屋の街としての個性を再興させるという目的が根幹にあったので、建物が街に対して建ち現れる態度が非常に重要なのではないかと考えました。上質のエンターテイメントの多くが、実は現実社会の鋭い批評性を内包しているように、建築計画に係わる現実的な問題への回答が一般的な建物とは異なる姿になる事にきちんとつながっていることが、必要と考えました。

そこで、形態制限、汚れ、雨水などリアルな要件をデザインの主役とし、建物が差し迫られた現実を生々しく反映しているながら、一見、数多くある常識的な建物とは異質なものとすることにしました。建物自体が日常と非日常、ケとハレのような両面性をきちんと持つことができるのではないかと考



写真1 北側からの全体外観

えたからです。

たとえば、天空率による多面体形状は、法的な要件を強く反映したものです。道路斜線モデルのような既視感の強い形態ではなく、外側に発散するかのような楽しげな形になりました。それと同時に汚れや雨水処理などの対策も発散するような形態を強調するような構成で、汚れ方や、雨水の流れ方を想像するだけで楽しめるようなものにできたと思います。

こうすることで、猥雑な街の状況を楽しみ、どんな建物でも直面するネガティブな問題さえ引き立て役に従えるような、強い態度をもった建物をめざしました。

またこの建築は芝居小屋であると同時に、表現を学ぶ者を育む場でもあるのです。素材と格闘する職人達の執念の痕跡が滲み出た空間が相応しいと考え、コンクリートの壁や外装の鋼板耐震壁は無補修としました。それが最終的にはこの建物を非常に芝居小屋らしく仕立てていると感じています。」

以上の結果、ミニシアターを1階に置くとセットバックがとれないので地下にもってきた。写真2は地下の神保町シアター内部を示す。シアター全体を浮き断遮音化し、ジョージ・ルーカスのシアター規格であるTHXの認証を取得したわが国初のシアターである。さらにシルバースクリーンを採用して3Dシアターにもなる。インテリアは寒色、青のレーザー光線風の灯りが走っている。1階はエントランスロビーで写真3に示すように、左方の入り口の両サイドに4.5 mm厚鋼板製の箱戸棚が取り付けられている。若い、幼い聴衆がロビー一杯に来場したり、彼らが走り回った場合、この出張った鋼板製箱の角で怪我をしないか、一寸心配である。2階はお笑いのための寄席・神保町花月でその階段を1階から見あげたのが写真4である。写真の左手、白く見える側桁は9 mm厚の鋼板製である。使い勝手はどうかという気もするが、鋼板はこういうところにも使えるのだ。花月劇場の内部は打ち放しコンクリートと吸音板を相対して配置し残響時間を0.5－0.6秒とやや長目にしてある。インテリアは地下シアターと反対に明るい暖色である。黄色や橙色のイスたち



写真2 地下階にある神保町シアター内部

はニューヨーク・ユニオン・スクエアにあるNCU講堂と同じイスを使ったという。4階5階は花月劇場のための寄席の稽古場である。異空間のもとに目を輝かした若者達がいっぱい寄席の稽古をしている。6階はオフィスフロアであり、各階からの非常階段が北側にある。

以上が主体構造：RC造 地下2階地上6階、主要仕上げ：外部：耐候性鋼板塗装仕上げ 外断熱構法 内部：RC 打ち放し ガラスクロス 建築面積255.50 m<sup>2</sup>、延べ床面積1445.95 m<sup>2</sup>の神保町シアタービルの姿である。

鉄鋼使用量について、一般的に6階建て事務所RC（鉄筋コンクリート）構造、延べ床面積2000 m<sup>2</sup>程度で鉄筋量は0.095－0.097 トン/m<sup>2</sup>といわれている<sup>4)</sup>。この神保町シアタービルは外装の耐候性鋼板だけでも0.080－0.100 トン/m<sup>2</sup>程度使用されていると見られ、一部の鉄骨構造、さらに鉄鋼の内装を含めれば、RC構造事務所建物の倍以上の鉄鋼を使用、すなわち0.2トン/m<sup>2</sup>使用したとみられる。



写真3 エントランスロビーと鋼板製箱戸棚



写真4 2階への階段と鋼板製側桁

ここでもう一度外観の多面体が決まっていく道程を振り返ってみよう<sup>3)</sup>。

最初は道路斜線による建築可能なボリュームを設定した。寄席とシアターは低層階に広く取りたいのでセットバックがとれない。このような場合上層階には小さくいびつな空間しか作れない。街の歩行空間に圧迫感を与えないかもしれないが、プランの自由度も低く、街に対して雑然とした印象を与えかねない。そこで新指標・天空率計算により建物のボリュームを増やし、建築と天空のせめぎ合いによって多面体を生み出した。内部の空間構成上支障のない隅を削り、上部階の空間を増やす検討を繰り返し行った。これによって内部に整形に近い空間を確保し面積にして約100 m<sup>2</sup>増やすことができた。

この多面体ボリュームの輪郭をぶらすことで、エッジをさら強調した躍動感を与え、重そうな塊に軽さを与えられないか、寄席や映画館のライブ感を建物にも反映できないかと考えた。同時に汚れやすい斜面の対策や雨水対策、鋼板の取り付け方法や熱伸び対策など様々な問題を集約して解けるのではないかと考えた。ステップとしてはまず多面体の躯体、その躯体の稜線に沿って鋼板パネルを割り付ける、さらにこの稜線に開口部や樋や水切りとなるスリットを設ける。すなわち開口部はパネルがはがれた部分か、スリットの一部と位置付けた。このステップとして完成したのが図1である。この図から鋼板パネルを伝う雨水が確実に溝に落ちるように各パネルは全てが微妙に異なる傾き方をしているのがわかる。これはリアルな要件を抽象化して消してしまうのではなく、それを適当に取り込むことが表現を強調することにつながった例証といえよう。この図のような耐候性鋼板の用い方が、溶接性は良いが高温状態に長くおくと弱点がでて来るといった特長を克服したものといえよう。

図2は地上7階地下1階延べ床面積1445.95 m<sup>2</sup>の建物の断面図である。図から音や振動に強いコンクリート躯体を、汚

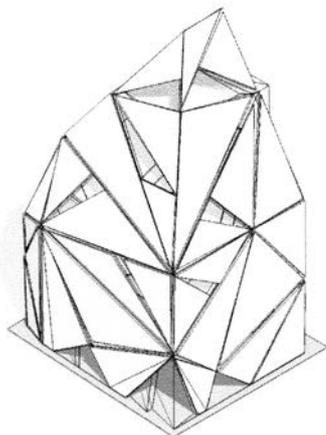


図1 多面体の躯体に鋼板パネルを割り付け開口部や樋を設置した全体図

れ対策のしやすい再加工性にすぐれた鋼板パネルが取り囲んでいることがよくわかる。図3は雨水処理の詳細断面図である。図から樋となるスリット、躯体に接する部分をアンカーボルトのみとしたところなどを注目されたい。こういう工夫でヒートブリッジを最小限にとどめ外断熱の効果をとさないように試みたのである。

以上とかく耐候性鋼板で従来問題のあった雨水対策、汚れ対策も鉄鋼会社と共同検討して、上手く処理されていることがこの建物の特長でもある。

この神保町シアタービルのオープニングは2007年7月14日・パリ祭の日であった。この紹介記事が掲載される頃は両劇場とも若者達で一杯であろうと思われる。読者がこの鉄の

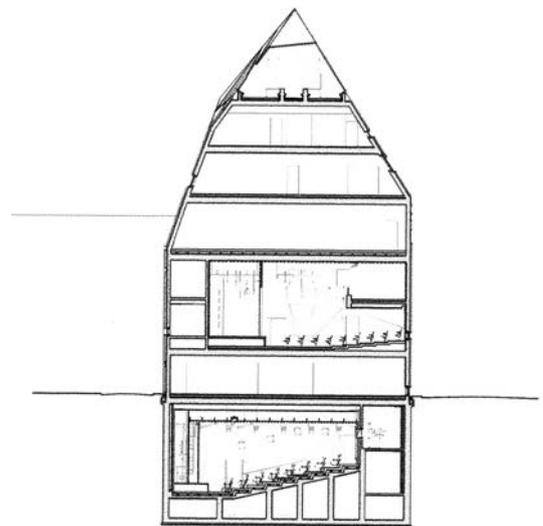


図2 コンクリート躯体を鋼板パネルが取り囲んだ建物全体の断面図

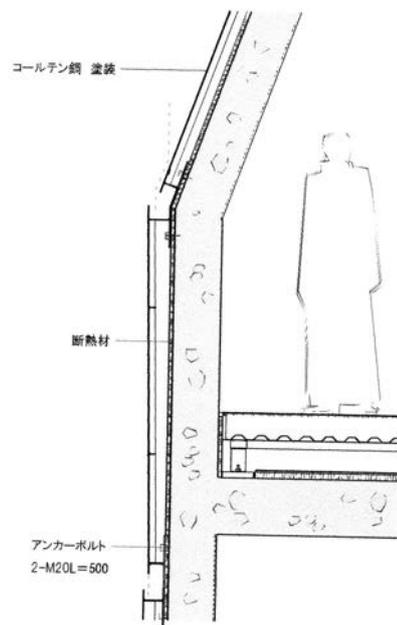


図3 樋となるスリット、アンカーボルトのみ設置の詳細断面図

鎧兜を思わせる異型の建物を訪れ、映画好きは3Dシアターの映像と音響を楽しみ、寄席好きは吉本のお笑いを満喫していただければ、筆者として望外の喜びである。

見学後あの鎧兜を思わせる異型は最近完成した巨匠ル・コルビュジエのサンピエール教会にも似ているな、と思った。丁度見学会の10日後の2007年6月30日、リヨンから南西60kmのフィルミニーにあるその教会を訪ねた。ル・コルビュジエの没後40年たった2006年11月やっと完工・献堂されたのだから驚きである。50年以上前の作品とくらべてみると、新しく品質のよいコンクリートできれいに打設されていた。当時のラフなテクスチャーが描く彫刻のような力強いル・コルビュジエの打ちっぱなしコンクリートの表現に比べて、よくまとめられている感じである。形は鉄筋コンクリートの鎧兜というよりもトーチカを感じさせた。いずれも

戦いで身を護るものとしては共通のかたちである。これは偶然の一致であろうか？

「鉄の鎧兜」として神保町シアタービルを紹介した。この寄稿をご許可いただいた(株)日建設計ならびに東京建築士会には心からの謝意を表明したい。

#### 参考文献

- 1) 安藤忠雄, 日建設計: GA Japan, 86 (5-6/2007), 8.
- 2) 伊東豊雄, S.S.東建男, 青島琢治, 岡野道子: GA Japan, 85 (3-4/2007), 10.
- 3) 山梨知彦, 羽鳥達也, 日建設計: 鹿島出版会SDレビュー, (2007), 5.
- 4) 月刊誌建築知識: 南洋堂, (2006), 07.

(2007年8月31日受付)